

第1回県土整備政策会議開催結果

県土整備部が行う社会資本整備や良好な生活環境の整備などの様々な政策に関して、学識経験者等からオープンに意見をいただく場として、県土整備政策会議を設置し、以下のとおり、第1回会議を開催しました。

1 日時 令和3年9月28日（火）午後2時から午後4時30分まで

2 場所 県議会議事堂 執行部控室（議事堂5階）

3 出席者

（委員） ※別紙委員名簿のとおり

（県土整備部）県土整備部理事、道路企画課長、道路管理課長、河川課長 他

4 議題と委員意見の概要

下記の議題について担当課長からプレゼンを行い、各委員からご意見・ご提案をいただきました。

（1）AIカメラを活用した道路交通モニタリング

現在、県で実施しているAIカメラを活用した道路交通モニタリングの内容について説明を行い、コロナ禍において、どのような呼びかけが県民に伝わり、行動変容につながるのか、またAIカメラの今後の活用手法等について意見を伺いました。

【主な意見の概要】

- ・新規感染者数の急増などのインパクトのある数字を示すことで行動自粛につながるのではないかと。交通量だけでは行動変容は難しいと思う。感染者数と交通量を同時に表示することにより相関関係がわかり危機感も高くなるのではないかと。（一方で文字による呼びかけだけでは行動変容にはつながらないという意見もあり。）
- ・自粛をしてもらいたいなら、もっと厳しい表現のほうがよいと思うが、観光等の影響も考えると難しい。本来は県外の方を対象に発信するほうがよいと思う。
- ・観光客の分析にナンバーが読み取れるとよい。検温のカメラもあるが顔認識できるものもあり、性能アップにより属性もわかれば活用方法も広がる。
- ・交通量がリアルタイムで確認できると混雑状況を把握できるのでよい。
- ・災害発生の可能性が高い箇所などに設置すればよいのではないかと。災害時に情報を的確に提供、迅速な発信ができるとよい。

（２）DXを活用した道路の維持管理

県管理道路の維持管理の現状や課題、DXを活用した維持管理を説明し、維持管理の効率化、迅速な情報収集を図るためのDX活用手法等について意見を伺いました。

【主な意見の概要】

- ・老朽化の点検時にAIデータを活用し、目視で行った場合とどれくらい差異があるのか検証し、人からAIに置き換わることによりどれだけ時間短縮や労働力の削減になるのか示すことができればよいのではないかと。
- ・これからDXを進めるにあたり、それぞれが別々のシステムを導入すると、将来、システムの維持管理自体に予算的な面も含め問題が生じてくると思われるので、汎用性のあるシステムになるよう検討したうえで導入していくべき。
- ・道路の路面標示は、実際に県内道路を走行していると消えていて走り難いと感じることも多いので、早期に発見し措置してほしい。
- ・東紀州のように災害が起これば陸の孤島となる地域もあるので、道路の維持管理は暮らしに非常に重要であり、効果的な対策を講じていただきたい。
- ・すべての公共インフラを維持できるかどうか、見切りも必要と思う。三重県だけの問題ではないが、必要な維持管理サービスに対して相応の負担を求めることも考えてよいのではないかと。
- ・市町や自治会等、関係者からの情報も重要である。警察の交通量調査等も活用しながら、DXデータと積み重ねることにより正確性を向上させることができると思うので、協力関係をしっかりと構築していただきたい。
- ・維持管理の重要性を県民の方に知っていただくことが必要。地域の建設業者の努力などがあり通行ができていることをしっかりと周知することが、将来の予算獲得にもつながるのではないかと。

（３）にぎわいのある水辺空間の創出

河川法改正により、全国的に賑わいを水辺空間に再生する動きが広がっていることや全国の実例を説明し、県内河川において、「にぎわいのある水辺空間」をつくるにはどうしたらよいかについて意見を伺いました。

【主な意見の概要】

- ・にぎわい創出には、トイレや駐車場、更にはアクセス手段といった利用しやすい仕組みが必要。市町や商工会議所等の意見も取り入れて進めるべき。
- ・川側からの景観といった観点も必要では。例えばカヤックからの映像などを取り入れることにより興味をもってもらえるのではないかと。
- ・「川の汚染」や「違法駐車」といった負の部分も考える必要がある。美しい川を守るために自然をどのように活用するか、県の支援を期待している地元の人

も多い。

・治水のため整備された河川敷では、ゲートボール場やテニスコートなどの運動施設が設置されているが、その利用方法がわからない方も多いと思うので、周知に努めていただきたい。

・三重県は車社会であるので、河川堤防の道路（1車線で対向しづらい道路が多い）や駐車場が整備されれば更に出かけやすい。川と親しむためには道路整備は必要であり、道路部局と河川部局で連携してDXの推進も含めて取り組めばよいのではないかと。

・広報を行えばやる気のある県民や団体も出てくると思う。「できる」ということをPRしていけばよい。3×3のバスケットボールコートなどの施設があってもいいのではないかと。

今後は、いただいたご意見について、十分な検討を行い、取り入れることができるものについては積極的に取り入れ、事業推進をはかってまいります。

【会議の様子】



三重県県土整備政策会議 委員名簿

任期【令和3年9月7日～令和4年3月31日】

(五十音順・敬称略)

氏名	所属・職名	備考
川瀬 恵莉香	三重大学生物資源学部 4年生	
斎藤 雄介	中日新聞三重総局記者	
酒井 俊典	三重大学生物資源学研究科 教授	
清水 良保	株式会社久志本組 代表取締役社長	
杉村 桂伍	三重大学生物資源学部 4年生	
坪井 あづさ	株式会社エイゼットソリューション	
安岡 優	株式会社百五総合研究所 主任研究員	
山崎 博	三重県議会議員	